

第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	林亮輔ゼミ	チーム名	# 水曜戦隊オシャレンジャー
タイトル	年間に排出される衣服の処分数を減らすには		
テーマ群	c)公共経済 e)産業・企業		
メンバー	大霜太嗣 加藤楓花 上村圭史 酒井奈美 柳優里		
研究計画内容	<p>[研究目的]</p> <p>ファッション産業は、衣服のライフサイクルの短さなどから、環境負担が非常に大きいと指摘されている。そこで国際的に衣類の生産から着用、廃棄に至るまでの環境負荷を考慮した、サステナブル(持続可能)なファッションへの取り組みが近年急速に広がっている。</p> <p>ここで日本における衣服の処分(焼却)・埋め立てについて見る。日本の衣服の廃棄量は 48 万トンに上る。手放した服の行方として、循環(リサイクル・リユース)に回している割合は 34%、処分・埋め立ての割合が 66%である。</p> <p>埋め立てをした場合、水質浄化機能の低下により水質汚濁が起こる。鳥類や魚類の索餌場である水深 3m 以下の浅瀬に埋め立てをしてしまうため、生き物の生態系をも変化させてしまう。また日本で埋め立てに使う事が出来る最終処分場はあと 20 年で満杯になってしまう。</p> <p>さらに衣服を焼却する際には大量の二酸化炭素が発生し、温室効果ガスによる気温上昇も見込まれる。</p> <p>このような害が発生するにもかかわらず、日本ではサステナブルファッションに関心がある人が約 6 割であるが、行動に移している人は 1 割にも満たない。また衣服の廃棄量が、事業所からの廃棄量が 1.4 万トンであるのに対し、家庭からの廃棄量は 49.6 万トンにも上る。</p> <p>このような現状から、日本で出来るサステナブルファッションへの取り組みを研究したいと考える。</p> <p>[研究内容]</p> <p>上記のような環境への害を削減するには、廃棄される衣服の処分数を減らす必要がある。衣服の処分数を減らすために衣服の処分・埋め立ての割合を衣服の循環の割合へシフトさせる政策を考える。</p> <p>サステナブルファッションに向けて行動している人が 1 割であることから、衣服の処分数を減らすための消費者へのアプローチとして、全国的に実施できる政策を明らかにする。</p> <p>[期待される効果]</p> <p>「サステナブルファッション」に関するテーマを研究・発表することで、現代のファッション産業の問題について周知してもらう機会になる。また現状分析や政策を明らかにすることで、日常的に「サステナブルファッション」への関心・行動を持ってもらえるようになる。</p> <p>環境省「サステナブルファッション」(https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/index.html、2021 年 10 月 21 日)</p>		